

新連載執筆のねらい

日系移民の歴史にみる天理教の北米伝道の諸相

尾上貴行

天理教の北米伝道は19世紀末に始まり、現在本部拠点、教会、布教所が各地に置かれ様々な布教活動を展開している。初期の布教対象は主に日本人移民であり、現在の伝道も在住する日本人や日系人と密接な関係を有する。本連載ではアメリカやカナダにおける日系移民の歴史的視点から北米での天理教の展開について考察する。日系移民社会の様相や北米での日系宗教の展開などにも随時言及しながら天理教伝道の諸相を検証し、今後の北米伝道における課題と展望を明示する一助としたい。

連載執筆者の紹介

尾上 貴行 (おのうえ たかゆき)

天理大学外国語学部英米学科卒。オーストラリア・ビクトリア州立モナシュ大学修士課程修了。平成6年4月から同28年3月まで天理教海外部の北米・オセアニア課、ヨーロッパ・アフリカ課などで勤務。平成18年11月から同24年8月まで英国連絡所所長としてイギリスに赴任。平成25年3月から同28年3月まで天理教国際たすけあいネット事務局長。平成26年4月より天理大学非常勤講師。平成28年4月よりおやさと研究所所員。専門は異文化適応、日系移民研究、地域研究（オーストラリア、イギリス）。

第295回研究報告会（9月13日）

中島秀夫における「天理教教学」と伝道—初期の諸論考から

澤井治郎

「天理教学」の研究史を振り返る試みの一環として、中島秀夫氏の初期に書かれた天理教教義学の序論的な諸論考を取りあげ、その特徴を概観した。ここで、初期としたのは、多くの著作がある中で、単に便宜的に取りあげる対象を限定しようとしたため、氏の思想的転換を示唆しようとしたものではない。

中島氏は、天理教学研究の特徴として、それは「求道」であり、また、「伝道」という教会の使命を推進する下ばたらきの力になるものであると述べている。報告の中では特に、この「求道」と「伝道」がどのような関係にあるのかについて、中島氏が参照している宗教哲学者・キリスト教神学者パウロ・ティリッヒの神学論を援用しながら考察し、地域的・文化的制約を超えた教えの真理の探求（「求道」）と、様々な地域・文化に生きる人びとの実存的な問いに答える（「伝道」）こととは密接不可分な事柄として捉えられていることを確認した。

第296回研究報告会（10月24日）

天理大学創設者・中山正善氏の帝大在学時代

岡田正彦

当日は、平成27年度の天理大学学術・研究・教育活動助成（「天理大学創設者・中山正善氏の帝大在籍時代」）の調査結果をもとに、研究報告を行った。

天理大学の創設者、中山正善氏は大正15年／昭和元年（1926）に東京帝国大学の宗教学宗教学史学科に入学し、昭和4年（1929）

に卒業する。この在学期間及びその前後には、天理外国語学校の開設や経営基盤の確立、教義及史料集成部の開設と天理教原典の公刊など、現在に至る天理教及び天理大学の歴史を考えるうえで、極めて重要な出来事が続いている。また、大正デモクラシーの影響が色濃く残る当時の日本は、一方で後の世界恐慌を予見させるような社会不安とも向き合う状況であった。

こうした時期に帝国大学で学び、近代スポーツとして再生された柔道に深くかかわりながら、20世紀の転換期に成立した宗教学という近代的な学問に出会ったことは、その後の創設者の活動に大きな影響を及ぼしたはずである。

本発表では、創設者の手記や講演等の記録と当時の経験の影響関係を問うのではなく、とくに近代日本における柔道と宗教学の展開に焦点をおきながら、創設者の帝大在学時代の周辺事情を詳述することによって、天理大学史や天理教史の手がかりを探った。

第297回研究報告会（11月17日）

戦前のアメリカ本土における天理教と日系移民社会

尾上貴行

天理教のアメリカ本土における最初の伝道者は1896年に渡米した船場大教会の玉置仙太郎氏とされる。1900年頃からアメリカ本土に渡航する日本人の数は増加したが、その中には多くの天理教信者も含まれ、過酷な生活を送りながらも積極的に布教活動を行う人たちがいた。1927年にサンフランシスコ教会が設立されると、本島、名京、周東などの諸系統が組織的な布教を展開するようになり、1933年の2代真柱巡教を契機に翌1934年にアメリカ伝道庁が設立されるなど、アメリカ本土での伝道は急激な伸展を見たのである。

布教の対象は主に出張労働者として渡米し定住していた日本人がほとんどであったが、その移民社会ではすでにキリスト教や仏教が主流な宗教となっていた。これらの各教団は移民を追いかける形で1900年頃までに次々と教会を設立していた。1920年代に本格的な伝道を開始した天理教や金光教などは、この既成の教団に遅れて日系移民社会で布教活動を展開することになったのである。

報告会では、まず天理教の北米伝道開始と展開、また当時の日系移民社会の様相を概観した。次に天理教の伝道が急速に伸展した要因を様々な角度から検討し、最後に布教師の多様性や病たすけなどの布教形態における特徴、また日系社会の「二世問題」への対応や非日系人への布教といった課題について考察した。

『グローバル天理』年間購読のご案内

原則的に新年度は1月号からとなっております。購読料については、送料のみの実費負担です。申し込みは、封書、FAX、メールでお願い致します（お電話での申し込みはご遠慮下さい）。毎月の希望冊数と、氏名（フリガナも）、郵便番号、住所、電話、FAX、E-Mail、職業をお知らせ下さい。申し込み受付後に振込み用紙を送付致します。切手・現金でのお支払いはご遠慮くださいますようお願い致します。振込みを確認後、発送させていただきます。

送料（ヤマト運輸メール便）
全国一律、A4（角2）厚さ1cmまで（10冊まで）
80円でお届けします。

11冊以降は160円になります。

例 毎月1～10冊購読 80円×12カ月＝960円

毎月11冊～購読 160円×12カ月＝1,920円

問い合わせ先：

〒632-8510 奈良県天理市杣之内町1050

天理大学 おやさと研究所 「グローバル天理」編集部

FAX 0743-63-7255 E-Mail: oyaken@sta.tenri-u.ac.jp